

# みんなで守ろう！

## 交通ルール 交通安全



一瞬にして大切な命や財産を奪ってしまう交通事故。そんな交通事故を少しでも減らし、安全なまちにしたいという願いは、誰もが持っているのではないのでしょうか。今月は、そんな願いをかなえようと、区内で行われているさまざまな交通安全活動を紹介します。

### 体験を 生かして



「左右を確認しないで飛び出したら車が走って来てびつくりした」「雪山の陰から急に車が出てきた」などと発表していたのは、百合が原小学校の児童たち。この発表は、校区内の道路上で「ヒヤリ」とした体験を基に危険個所をまとめた地図「交通セーフティマップ」作成のために行われたものです。

同校では、「みんなで作ろう」を合言葉に昨年十一月から、このマップ作りに取り組み始めました。高学年の児童たちが危ないと感じた交差点などの場所を校区内の地図にシールで示し、「停車している車の陰で周りがよく見えない」



などのコメントを次々に記入。最後にみんなの意見をまとめて完成です。出来上がった地図には、多くの児童が危ないと感じた場所ほど、大きく目立つマークが表示され、より注意を促すコメントが書かれています。

このマップ作りに取り組んだクラスの一つ、五年三組では、地図上にシールを張るだけでなく、お互いの体験を発表し合い、さらにその原因についても考えました。そして、実際に学校周辺を歩きながら、交差点の交通量や気を付けなければならぬ点などを確認し合い、あらためて交通ルールを学びました。



▲危険個所がすぐに分かることがこのマップの特徴です

後日、「ヒヤリマップ」と名付けられたこのマップが完成して手渡されたときには「学校の周りには気を付けなくちゃいけない場所がこんなにあるんだね」といった感想をお互いに話し合っていた児童たち。「ヒヤリ体験」について話し合ったり、自分たちで地図を作成したりしたこと、交通ルールを守る大切さについて一層理解が深まったようです。

こうした「交通セーフティマップ」は、区内の市立小学校で順次作成されており、今年度中すべて完成します。児童や地域の交通安全関係団体などに配られ、子どもたちの目線で見た危険個所が分かる資料として、交通安全活動に幅広く活用されます。



▲掲示用のマップを見ながら、「自分の部屋にも張って毎日見るよ」と喜ぶ児童たち